

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「生きる力」を育む教育活動の充実を図るとともに、生徒の個性を伸長させ、社会をリードする人材を育成する学校。

- 1 学習において、主体的に知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する「確かな学力」を育成する。
- 2 生命や人権を尊重し、自然や美しいものに感動する「豊かな心」を育むとともに、たくましく生きるための「健康・体力」を保持増進する。

【参考】スクールミッション

校訓「進取・創造・敬愛」のもと、総合学科・演劇科・食物文化科の3つの学科を設置するとともに、中学校を併設する高校として、異なる価値観を認めて多様な他者と協働し、社会の変化に柔軟に対応して新しい時代を切り拓く、高い志とチャレンジ精神を備えた人物を育成する。

2 中期的目標

- 1 新しい時代を生き抜くための「確かな学力」の育成
 - (1) 生徒一人ひとりの状況に応じた学習指導の推進
 - ア すべての教科において、主体的・対話的で深い学びの実現をめざし、一人ひとりの生徒が能動的に参加できるように授業の工夫を行い、今後必要とされる学力の向上をめざした授業研究・実践に取り組む。
 - イ 定期的に会議を実施し、個々の生徒の状況を共有し、課題のある生徒に対して組織的に対応する。
 - (2) 自学自習習慣の確立
 - ア 自学自習習慣の確立のため、自習環境の整備や大学生の学習ボランティアの活用など学習環境の整備に努め、生徒の自ら学ぶ力を育成する。
 - ※授業アンケート調査における「授業内容に、興味・関心をもつことができた」の肯定率を令和9年度には85%以上とする。(R4 82.5% R5 84.3% R6 87.6%)
 - ※授業アンケート調査における「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」の肯定率を令和9年度には85%以上にする。(R4 83.9% R5 84.3% R6 88.6%)
- 2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ
 - (1) 基本的生活習慣の確立
 - ア 基本的生活習慣の確立と挨拶運動からの互いに尊重する態度の育成など、規範意識の醸成を図るため正門での登校指導や遅刻指導等に取り組む
 - (2) 学校行事の活性化
 - ア 生徒会や部活動・団活動のリーダーを中心に、生徒一人ひとりが協力し合い、本校の特色を生かした取組みについて、生徒の自主的な活動を促進する。
 - イ 学校行事や生徒会活動の特別活動を通して、他者を尊重し、理解し、望ましい集団活動ができる態度を育成する。
 - ウ 姉妹校の訪問と受け入れや訪日団体の受け入れ等、国際理解教育を積極的に推進し、グローバル社会に対応できる力を育成する。
 - (3) 体力・運動能力向上のための取組みの充実
 - ア 生徒が安心・安全かつ積極的に体育・スポーツ活動に取り組むことができるよう事故防止や熱中症予防についてのセミナーを開催し、健康管理や救急救命処置等についての学校全体の意識を高める。
 - ※学校教育自己診断における「本校は生徒心得を守るよう適切に指導している」の肯定率を令和9年度には85%以上とする。(R4 81.4% R5 83.4% R6 86.2%)
 - ※学校教育自己診断における「私は服装や髪型等、生徒心得を守っている」の肯定率を令和9年度には97%以上にする。(R4 95.4% R5 95.7% R6 94.5%)
- 3 進路保障
 - (1) キャリア教育の推進
 - ア 学校生活における全ての教育活動をキャリア教育と位置づけ、基礎的・汎用的能力を育成する。効果的な指導を行うためのガイダンスなどを系統的・継続的に行う。また、教科でのキャリア教育を推進し、思考力・判断力・表現力をより重視した教育活動を進める。
 - (2) 進学対策の充実
 - ア 学習支援クラウドサービスを効果的に活用するとともに、長期休業中に集中的にセミナーを実施するなど進路や習熟度に応じた対策を講じる。
 - イ 学年・学科・系列と協力し、進路意欲向上のためのガイダンスの実施や情報発信をおこなう。
 - ウ 1人1台端末を使用して、学力生活実態調査や学習支援クラウドサービスを効果的に活用した一人ひとりのニーズに応じた進路指導を推進する。
 - ※2年生の学校教育自己診断で、「私は具体的な進路目標を持っている」の割合を令和9年度には80%以上にする。(R4 78.3% R5 69.2% R6 81.6%)
 - ※学校教育自己診断で、「本校では進路に関する情報提供が十分に提供され、きめ細かい指導が行われている」の肯定率を令和9年度には全学年で85%以上にする。(R4 85.4% R5 84.5% R6 85.8%)
 - ※第3学年当初の希望進路実現率を令和9年度には90%以上にする。(R4 87% R5 90% R6 87%)
- 4 学校の組織力向上と魅力のある開かれた学校づくり
 - (1) 学校運営体制の整備
 - ア 各分掌や学科・系列・教科の業務や指導内容を点検・評価を行い、校内の「見える化」をさらに進める。
 - イ 本校の将来を見据えた課題解決の方向性を示し、改善策を立案する。
 - (2) 授業研究を伴う校内研修の充実
 - ア 授業力・教科指導力の向上を目的として、公開授業週間および保護者対象の授業参観を実施する。
 - (3) 働き方改革
 - ア 校内組織の見直し、ICT活用の推進および部活動方針に沿った活動の適正化を図る。
 - (4) 家庭・地域との連携の推進
 - ア 「学年だより」「進路だより」「保健だより」等のデータ配信、授業参観、PTA研修会等の実施、地域イベントへの参加などにより家庭・地域と連携した教育活動を行う。
 - (5) 広報活動の充実
 - ア 生徒の学校生活や校内行事、校外活動などについて、ホームページや公式SNSを通じて外部に積極的に情報を発信する。
 - ※時間外在校等時間月80時間以上の教職員を令和9年度には5%以下とする。(R4 11% R5 8.6% R6 8.6%)
 - ※学校教育自己診断で、「本校に入学してよかったと思っている」の肯定率を全学年で令和9年度には90%以上にする。(R4 85.0% R5 85.5% R6 84.1%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい時代を切り拓く「確かな学力」の育成に向け、多様な学習ニーズに応じた学習指導を一層推進した。「生徒の学習意欲に応じて学習指導の方法や内容を工夫している」教員は100%と、回答したすべての教員が肯定的に評価しており、個別最適な学びに向けた授業改善が教員集団に根づいている。また、「授業でICT機器を積極的に活用している」教員は96.8%と、ICTの活用は日常実践として定着している。生徒回答においても、「学校は1人1台端末を効果的に活用している」が93.2%と高い支持を得ており、学習環境の整備が生徒の学びを後押ししている。一方で、学科・系列の学習内容に関する満足度は概ね良好であるものの、さらなる充実を望む声も一定数見られることから、多様な生徒が在籍している本校の実情を踏まえ、引き続き「個に応じた指導」の具体化と実践研究を進めたい <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活指導部および担任団を中心に、生活習慣の改善に向けた取組を継続した結果、遅刻は前年より減少し、全体として改善傾向が見られた。加えて、保護者による「無断欠席・遅刻について適切に指導されている」の肯定的評価は89.7%と、学校の指導姿勢に対する理解が家庭にも広がっている 体育祭・文化祭・国際交流等学校行事に関する満足度は90%以上で昨年度に引き続き、非常に高く、生徒会主導の企画・運営スタイルが、生徒の主体性を伸ばしつつ学校全体の満足度を高めている。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全校一斉定時退勤日やノークラブデーの実施を通じて働き方改革を継続しているが、依然として時間外勤務時間は多い。一方で、教職員の「気軽に相談し合える職場の人間関係」については90.3%と非常に高く、組織の風通しの良さが強まっている。今後は、良好な人間関係を維持しながら、校務の効率化に向けた取組みをさらに推し進めたい 志願者確保の取組として、在校生が学校説明や案内、質疑応答を担う方式を実施した結果、来校した中学生・保護者の満足度は全4回とも90%超と高評価であった。生徒自身が魅力を伝える本校のスタイルは、来訪者の納得感を高める手法として有効性が確認できた 	<p>第1回（6/11）</p> <p>○R7年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 分野の特色を生かした指導を行い、生徒を育成していくことが望ましい。 SNSやHPを活用しながら広報にも力を入れてほしい。 地域に根差した教育を行い、地域で生徒を育てていくことも視野に入れていただきたい。 <p>第2回（10/30）</p> <p>○R7年度学校経営計画（進捗状況）について</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒が在籍しており、卒業生も様々な分野で活躍している。その魅力を積極的に発信していただきたい。 特色ある取り組みを続けていくためにも実績を上げ、学校の特色をアピールしていただきたい。 創立18年を迎え、施設・設備にメンテナンスが必要な時期に来ていると思われる。専門性の高い設備や機材を持続させるためにも、予算の確保に努めていただきたい。 <p>第3回（2/4）</p> <p>○R7年度学校経営計画及び学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年間の評価として、概ね理解をいただいた。 次年度に向けて、ホームページの更なる充実を図っていただきたい。 <p>○中学校・高等学校「令和7年度学校教育自己診断の結果」について</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒と保護者の自己診断結果について、概ね理解をいただいた。 「入学してよかった」と答えた保護者・生徒の数が上昇している。継続できるように取り組みの充実を図っていただきたい。 <p>○R8年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 労働安全衛生管理体制の充実に関して項目が追加された。引き続き、時間外在校等時間の削減に取り組んでいただきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 新しい時代を生き抜くための「確かな学力」の育成	<p>(1) 生徒一人ひとりの状況に応じた学習指導の推進</p> <p>ア 主体的・対話的で深い学びの実現</p> <p>イ 授業へのICT機器の効果的な活用</p>	<p>ア・一人ひとりの生徒が能動的に参加できるようにアクティブラーニング型手法を取り入れた授業を行い、専門人材を積極的に活用し、確かな学力の育成と授業改善に取り組む。</p> <p>大学と連携し高大接続の強化</p> <p>イ・1人1台端末を効果的に活用した教育実践に取り組む。</p>	<p>ア・教職員用学校教育自己診断で、「主体的・対話的で深い学びとなるよう、一方的な講義形式ではない授業形式など授業を工夫している」教員の割合90%以上を維持[89.8%]</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート結果で、「授業内容に、興味・関心をもつことができた。」の肯定率85%以上[87.6%] 授業アンケート結果で「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。」の肯定率85%以上[88.6%] <p>イ・生徒用学校教育自己診断で、「学校は1人1台端末を効果的に活用している」肯定率90%以上[88.7%]</p>	<p>ア・アクティブラーニング型手法を取り入れている割合は100%を達成し、個に応じた指導の工夫が確認できた。次年度も引き続き工夫に努め定着させたい(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 興味・関心の肯定率は88.2%であった(○) 知識・技能の肯定率は89.1%であった(○) <p>イ・生徒の肯定率は93.2%であった(○)</p>

府立咲くやこの花高等学校

	(2) 自学自習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 学力生活実態調査や学習支援クラウドサービスを活用し、自身の課題把握や教材配信など学習支援を図る。また大学と連携し、大学生の学習ボランティアによる自習環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員用学校教育自己診断で、「授業において積極的に ICT 機器の活用を行っている」教員の割合 90%以上を維持 [96.0%] 大学と連携し、学習ボランティアを活用した土曜セミナー(自習スペース開放)を年間5回実施 [5回] 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の肯定率は 96.8%であった (○) 土曜セミナーを定期考査ごとに年間5回開催。今年度は大阪公立大学の学生ボランティアを活用し、生徒の学習に対するモチベーションアップに寄与した (○)
2 豊かでありたい人間性のはぐくみ	(1) 基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立と挨拶運動からの互いに尊重する態度の育成など、規範意識の醸成を図るため正門での登校指導や遅刻指導等に取り組む カウンセリングシートを用いた個別指導 遅刻防止週間の設定 早朝登校の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 年間の遅刻数を1人あたり3回以下[4.95回] 	<ul style="list-style-type: none"> 1人あたり3.75回(△) ※評価指標には達していないものの、遅刻回数は減少した。生活指導部および担任団を中心に、生活習慣の改善に向けた取組を継続した成果がうかがえるため、引き続き実践研究を継続する
	(2) 学校行事の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会役員がリーダーとなり、生徒が自主的に学校行事を運営することにより、他者を理解し、望ましい集団活動ができる態度を育成する。また、姉妹校の訪問や受け入れ等、国際理解教育を積極的に推進し、グローバル社会に対応できる力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒用学校教育自己診断「私は体育祭・文化祭などの学校行事に積極的に参加している」の肯定率90%以上[92.5%] 姉妹校との交流に参加した生徒の満足度90%以上[96.4%] 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定率は93.4%であった(○) 参加生徒の満足度は93.0%であった(○)
	(3) 体力・運動能力向上のための取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> 事故を防止し、生徒が安心・安全かつ積極的に体育・スポーツ活動に取り組むことができるようセミナー等を開催し学校全体の意識向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 年1回以上救急救命法や熱中症予防等の生徒向けセミナーを開催 [1回] 生徒用学校教育自己診断「本校は生徒の健康管理を適切に行っている」肯定率85%以上[84.1%] 	<ul style="list-style-type: none"> 4/17 熱中症予防セミナーを部活動代表者、応援団長・副団長、保健委員対象に実施。また、1年生には授業内で救命救急の内容を講義した。(○) 生徒の肯定率は90.2%であった(◎)
3 進路保障	(1) キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活における全ての教育活動をキャリア教育と位置づけ、基礎的・汎用的能力を育成するとともに、主体的・対話的で深い学びを実践する力の育成をめざして系統的・継続的なガイダンスを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の状況や実態に応じたガイダンスや講話を各学年とも学期に1回以上実施[1年6回、2年12回、3年19回] 	<ul style="list-style-type: none"> キャリアガイダンスと進路講話を合わせて、1年生6回、2年生14回、3年生20回実施した(○)
	(2) 進学対策の充実			
	ア 進路や習熟度に応じた進路指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ア・学習支援クラウドサービスを効果的に活用し、従来中心であった放課後のセミナーを長期休業中に集中的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ア・セミナーの講座数20講座程度[21講座] 	<ul style="list-style-type: none"> 講座数21回(○)。入試方式の多様化に対応して、個別指導に移行している。今後も効果のあるセミナーの運用を図る。
イ 多様な進路希望に対応した情報発信	<ul style="list-style-type: none"> イ・進路意欲向上のため学年・学科・系列と連携のもと、生徒の進路実現に向けた情報発信を継続的にこなす。 大学教員による進路ガイダンス 大学教員による出前講義や実技講習 学科、系列ごとの大学訪問 	<ul style="list-style-type: none"> イ・学習支援クラウドサービスを活用した生徒、保護者向けの進路情報の発信を月1回以上実施 [12回] 2年生の学校教育自己診断「私は具体的な進路目標を持っている」の割合75%以上[81.6%] 	<ul style="list-style-type: none"> 進路だよりを12回発信することで生徒・保護者への丁寧な情報提供に努めた(○) 具体的な進路目標を持っている生徒の割合は82.5%であった(○) 	

府立咲くやこの花高等学校

			<ul style="list-style-type: none"> ・3学期の生徒・保護者学校教育自己診断「本校では進路に関する情報提供が十分に提供され、きめ細かい指導が行われている」の肯定率が生徒85%以上[85.8%]・保護者75%以上[74.3%] ・第3学年当初の希望進路実現率85%以上[87%] 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定率は88.2%であった(○) ・保護者の肯定率は74.7%であった(○) ・希望進路実現率89.9%であった(○)
4 学校の組織力向上と魅力のある開かれた学校づくり	<p>(1) 学校運営体制の整備</p> <p>(2) 授業研究を伴う校内研修の充実</p> <p>(3) 働き方改革</p> <p>(4) 家庭・地域との連携の推進</p> <p>(5) 広報活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特色ある教育の一層の充実を図るため、各分掌や学科・系列・教科の業務や指導内容について点検・評価を行い、校務運営の「見える化」の推進を図り、連携を強化する。 ・本校を取り巻く課題を検討し、教育活動を体系化・継続化するため、将来構想検討委員会を定期的に開催し、魅力ある教育活動の実施をめざす。 ・教職員間での公開授業週間および保護者対象の授業参観を実施することを通じて、個に対応できる授業力・教科指導力の向上をめざす。 ・校務運営におけるICT活用を推進し、校務の整理と効率化を図り、教職員の時間外勤務の縮減を推進する。 全校一斉定時退勤日の徹底 「部活動方針」を遵守するとともにノークラブデーの徹底 保護者配付資料や会議資料のペーパーレス化推進 ・開かれた学校づくりのため、「学年だより」「進路だより」「保健だより」等の発行や教職員・PTA 合同の研修会等の実施、生徒の地域イベントへの参加などに取組み、家庭・地域と連携した教育活動を充実させる。 区主催のイベントへの参加 地域との連携事業の推進 ・ホームページについて、公式 SNS との役割分担等研究して積極的に学校に関する情報を発信し、学校の魅力を正しく外部に伝える。 公式 SNS の充実発展 生徒主体の学校説明会や体験入学の運営 中学校 PTA 対象学校見学会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・部長や主任とのヒアリングの機会を増やし定期的な業務の点検評価を学期ごとに行い、学校運営体制の整備を着実に進める[新規] ・校務運営の在り方も検討する将来構想検討委員会を年間5回以上開催[5回] ・公開授業週間、保護者対象授業参観をそれぞれ年2回以上実施[公開授業週間2回、保護者対象授業参観2回] ・教職員用学校教育自己診断「学校は教育活動全般について生徒や保護者の願いに応じている」の肯定率85%以上[85.7%] ・時間外在校等時間月80時間以上の教職員数7%以下[8.6%] ・職員会議の70%以上を開催時間50分以内[60%] ・保護者用学校教育自己診断「本校は保護者に対して、教育活動を理解するための情報提供が適切に行われている」の肯定率85%以上[85.7%] ・教職員・PTAの合同研修会を1回以上実施[1回] ・地域で開催される地域イベント等に生徒が参加することができたか。[6回] ・ホームページの更新100回以上[77回] ・公式 SNS の更新100回以上[53回] 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員用学校教育自己診断の「学校運営に教職員の意見が反映されている」教職員の肯定率がR5が55.6%、R6が59.2%と低い数値だったので改善を試みた結果R7は61.3%と微増。今後この指標を活用して取り組みたい(○) ・将来構想委員会を5回開催(○) ※各分掌の業務の洗い出し等校務の整理につなげてゆく ・公開授業週間を2回実施、授業参観を2回実施(○) ・教職員の肯定率は93.6%であった(◎) ・時間外在校等時間が月80時間以上の教職員の割合は7.0%であった(○) ・84%が50分以内に終了できた(○) ・保護者の肯定率83.9%(△) ※保護者連絡ツールやHP、SNS等を効果的に活用し、教育活動の内容や学校の取組みに関する情報提供の充実に努める ・11/18 中高合同人権講演会実施(○) ・プラスEXPO、此花区民まつり(吹奏楽部)、此花区老人福祉センター望年会(演劇科)、西九条小学校との交流授業(スポーツ科学系列)、大阪・関西万博におけるイベントへの参加などの地域連携を6回実施(○) ・HP18回更新(△) ・公式SNS97回更新 フォロワー1,317名(◎) ※公式SNSは大幅にフォロワーが増加し、魅力発信につながられている ※HPの更新も検討し、広く情報発信に努めたい

府立咲くやこの花高等学校

			<ul style="list-style-type: none">・生徒用学校教育自己診断「本校に入学してよかったと思っている」の肯定率 85%以上[84.1%]	<ul style="list-style-type: none">・生徒の肯定率 90.0% (◎)※志願者確保及びミスマッチによる転退学を減少させるためにも、引き続き、本校の特色ある教育内容が正しく伝わるように努める
--	--	--	--	---